

ネット書店・電子図書館利用は大幅伸長

表-1 書籍・雑誌推定販売額推移 (出版科学研究所調査、単位：金額=百万円、前年同月比=%)

	2月	前年同月比	3月	前年同月比	4月	前年同月比	5月	前年同月比
書籍	71,395	▲3.2	91,649	▲4.1	47,682	▲21.0	42,383	9.1
月刊誌	37,002	▲4.6	43,490	▲8.5	42,293	1.8	28,686	▲1.5
週刊誌	7,879	▲8.2	8,488	▲6.4	7,888	▲11.6	5,943	▲22.0
雑誌計	44,882	▲5.2	51,977	▲8.1	50,181	▲0.6	34,630	▲5.7
書籍・雑誌計	116,277	▲4.0	143,626	▲5.6	97,863	▲11.7	77,013	1.9

*月刊誌にコミック・ムック含む

出版科学研究所の調査によると、書籍・雑誌市場全体は、やはりこの期間は全体としてマイナスで推移している(表1)。感染拡大が明らかになった3月は、2月に比べてマイナス幅が大きくなったが、書籍は学習参考書が30%増、児童書が12%増など好調に推移したことで4・1%減にとどまった。一方で雑誌は、中国生産の付録が遅れて発売延期が多く発生するを主としたことで大幅なマイナスになった。

4月は緊急事態宣言に伴う大型書店の休業が増加し

コロナ下の出版市場を見る

出版科学研究所の調査によると、書籍・雑誌市場全体は、やはりこの期間は全体としてマイナスで推移している(表1)。感染拡大が明らかになった3月は、2月に比べてマイナス幅が大きくなったが、書籍は学習参考書が30%増、児童書が12%増など好調に推移したことで4・1%減にとどまった。一方で雑誌は、中国生産の付録が遅れて発売延期が多く発生するを主としたことで大幅なマイナスになった。

4月は緊急事態宣言に伴う大型書店の休業が増加し

新型コロナウイルス感染拡大によって、外出自粛などの影響が出た今春の出版市場は、営業を続けた店舗には多くの来店客があり、売り上げも大きく前年を超える店が多かったが、商業施設の休館にともなう休業も発生した。一方、ネット書店での販売や電子書籍の販売・貸出は急増するといった傾向が見られた。いくつかの調査データからこの間の販売傾向を分析した。

リアルは大型店ほど厳しく

出版科学研究所では「休業店が多かったことや学校採用品の返品が行われていないことで、返品が大きく減っていることが要因だ」と分析している。今後、返品が増加することで、6月以降に悪影響が予想される。月刊誌は『鬼滅の刃』をはじめとしたコミックスが好調だったことからマイナス幅が小さかった。

(5面に続く)

ネット書店は2桁増続く

特定警戒地域の落ち込み大きく

(下から続き)

書店店頭の販売状況は、日本出版販売(白版)のジャンル別調査による「特販」(と、学参、児童書、コミック)が前年同月超えを続け、8%減をほじた以外は、やはり落ち込み幅が大きい分野が目立つ(表2)。

また、同社特別に「コロナ下の出版市場を見る」を推している中で、ナ

下と解除後などによつてる(表3)。

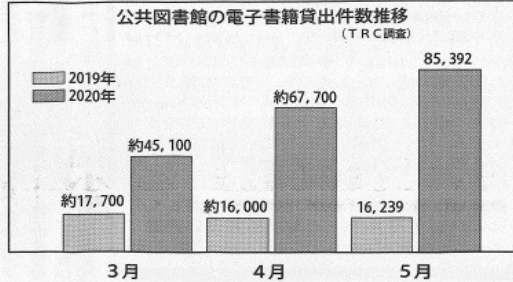
一方、出版別別店頭売上前年同月比(単位:%)

	3月	4月	5月	6月
月刊誌等	▲8.4	▲9.3	▲4.6	▲10.7
週刊誌等	▲12.9	▲16.3	▲20.7	▲15.4
文芸書	▲6.5	▲15.0	▲1.2	4.8
実用書	▲14.7	▲27.4	▲9.4	▲9.3
ビジネス書	0.7	▲10.0	7.7	9.0
専門書	▲6.3	▲15.2	1.6	2.8
学参	23.8	28.7	5.8	▲5.0
児童書	14.9	1.0	29.8	3.1
文庫	▲8.5	▲12.9	▲0.9	▲4.0
新書	▲12.7	▲22.9	▲1.8	▲4.6
コミック	19.6	16.6	57.6	30.3
特販	▲6.5	▲40.8	▲25.1	▲2.8
首都圏	1.2	2.2	16.6	3.5
東部	3.7	5.5	30.0	6.9
中部	3.8	3.5	19.9	0.9
関西	0.2	▲6.3	13.7	1.7
中四国九州	2.9	▲1.5	17.1	5.4
合計	0.8	▲6.1	11.2	2.6

*調査店は当年前年ともにデータが取得できる店舗
*調査店舗数=3月1695店、4月1738店、5月1762店、6月1724店

表-3 リアル書店とネット書店の販売推移 (光とコンピュータ調査)

店舗形態	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
リアル書店	▲0.3	▲6.4	▲3.8	▲23.1	▲15.4	▲11.6	▲10.1
ネット書店	22.7	17.9	25.0	24.4	41.1	39.8	28.3
合計	2.3	▲3.4	▲0.2	▲17.0	▲8.1	▲4.9	▲5.3



コロナ下の出版市場を見る

この調査は、全国の集計。限られた出版に、一般書、実用書、学参、児童書、コミックの偏りな傾向があるが、広範な市場の傾向をみる。表3はこのうちリアル書店の販売前年同月比を、東部、中部、関西、中四国九州、全体では10・1%減

都道府県別書店販売前年比推移 (光とコンピュータ調査、単位:%)

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
北海道	1.0	▲9.4	▲8.9	▲21.1	▲10.9	▲4.6	▲9.2
青森県	▲2.4	▲3.2	▲2.7	▲13.1	7.7	▲13.1	▲4.9
岩手県	1.3	▲1.8	▲0.7	▲0.4	4.9	▲5.5	▲0.3
宮城県	▲1.6	▲8.8	14.5	▲7.9	▲1.6	▲6.3	▲1.9
秋田県	6.0	▲11.8	▲1.1	▲13.4	9.5	▲6.5	▲3.1
山形県	▲3.7	▲5.5	▲1.9	▲7.5	5.2	▲6.3	▲3.5
福島県	3.2	▲5.3	3.9	▲8.1	0.8	▲18.8	▲4.0
茨城県	▲4.3	▲7.6	▲16.0	▲19.9	▲9.6	▲13.1	▲12.0
栃木県	▲2.6	▲11.9	▲6.8	▲14.1	▲5.5	▲13.8	▲9.1
群馬県	▲6.6	▲12.7	▲9.5	▲10.2	1.4	▲14.2	▲8.8
埼玉県	▲1.4	▲9.0	▲5.5	▲22.6	▲18.6	▲14.3	▲11.8
千葉県	▲1.6	▲7.0	▲5.3	▲26.4	▲18.8	▲9.0	▲11.5
東京都	▲0.5	▲6.3	▲8.2	▲36.9	▲34.6	▲16.5	▲17.3
神奈川県	▲5.1	▲8.2	▲12.6	▲42.0	▲40.7	▲13.4	▲20.3
新潟県	2.6	▲7.8	▲0.7	▲8.3	4.4	▲13.6	▲3.9
富山県	1.6	▲9.3	▲1.8	▲19.6	1.2	▲8.6	▲6.4
石川県	0.6	▲3.6	▲2.5	▲0.3	8.8	▲9.9	▲1.3
福井県	▲3.7	▲6.0	6.4	▲9.9	6.7	▲4.6	▲2.0
山梨県	0.7	▲2.6	4.6	▲1.2	6.3	▲10.2	▲0.4
長野県	▲0.3	▲11.3	▲3.9	▲14.1	▲8.4	▲15.5	▲8.8
岐阜県	▲4.4	▲4.6	▲3.3	▲11.1	▲1.5	▲8.6	▲5.6
静岡県	▲3.3	▲6.1	5.3	▲7.2	5.5	▲7.0	▲2.2
愛知県	2.4	▲5.5	▲3.2	▲13.7	▲11.0	▲18.5	▲8.0
三重県	▲1.5	▲7.1	▲1.5	▲13.6	▲6.2	▲15.4	▲7.4
滋賀県	3.4	4.5	10.0	▲12.5	5.1	▲5.4	0.5
京都府	9.5	0.4	6.2	▲15.6	▲6.9	▲8.7	▲2.5
大阪府	6.5	2.3	▲1.2	▲35.6	▲12.1	▲6.0	▲8.4
兵庫県	5.8	▲0.1	2.2	▲26.5	▲10.7	▲5.6	▲6.0
奈良県	3.4	▲1.7	3.4	▲7.4	▲1.9	▲1.5	▲0.9
和歌山県	▲5.7	▲8.6	▲11.0	▲8.5	0.9	▲14.2	▲7.9
鳥取県	▲5.0	▲3.2	2.0	▲9.8	6.6	1.6	▲1.9
島根県	▲6.6	▲9.6	▲4.0	▲4.2	16.6	▲1.4	▲2.1
岡山県	0.4	▲13.6	4.5	▲9.6	▲1.1	▲12.1	▲5.2
広島県	▲2.7	▲8.1	▲5.8	▲20.4	▲21.6	▲17.2	▲12.5
山口県	▲5.0	▲10.5	8.2	1.4	14.4	▲6.7	0.1
徳島県	▲5.9	▲12.6	▲0.5	▲6.8	0.5	▲8.1	▲5.6
香川県	▲6.0	▲18.3	10.2	0.2	▲0.3	▲12.4	▲4.0
愛媛県	4.4	▲6.6	5.8	▲6.1	6.7	▲3.6	0.1
高知県	11.7	28.7	35.0	▲3.0	23.5	11.5	15.8
福岡県	0.0	▲7.8	▲0.9	▲21.4	▲12.5	▲7.5	▲8.2
佐賀県	0.4	▲11.8	4.3	▲10.6	▲0.6	▲12.0	▲4.9
長崎県	▲7.2	▲16.3	▲5.7	▲17.0	▲11.8	▲17.4	▲12.4
熊本県	▲4.7	▲11.2	▲2.5	▲10.0	▲6.6	▲13.1	▲7.9
大分県	▲4.0	▲9.7	▲4.3	▲8.8	3.6	▲2.2	▲4.5
宮崎県	▲7.9	▲8.1	▲0.6	▲16.4	13.5	▲5.9	▲4.8
鹿児島県	1.1	▲8.2	▲1.3	▲1.5	2.9	▲8.2	▲2.5
沖縄県	▲10.7	▲17.7	▲2.9	▲14.5	▲4.9	▲2.5	▲9.0
海外	▲54.3	▲29.8	18.2	▲64.0	▲6.9	▲89.3	▲40.5
合計	▲0.3	▲6.4	▲3.8	▲23.1	▲15.4	▲11.6	▲10.1

特定警戒地域 特定警戒解除地域

ネット書店生活必需品 感染拡大の中で大手ネット書店が生活必需品に力を入れている。6月現在の公共図書館の貸出実績が3月は155%増、4月は155%増となつた。特に特定警戒地域に指定された自治体は、それ以外に比べてマイナスイメージが大きい傾向が出ている。とりわけ5月半ばで指定が解除されなかった北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府、兵庫県での落ち込みは大きかった。一方、ネット書店は5月が41・1%増、6月が39・8%増と前年同月とも大きく前年を上回っている。また、図書館通過センター(TRC)によると、同社のシステムを導入する285館(78自治体)の6月現在の公共図書館の貸出実績が3月は155%増、4月は155%増となつた。5月は42%増と前年同月を大幅に上回った。新型コロナウイルス感染症による出版市場への影響は、リアル書店には緊急事態宣言に伴う休業という形で現れ、特に大型書店へのインパクトが大きかった。一方、ネット書店は大きく伸び、5月の売上前年比が3月24%増、4月32%増、5月44%増、6月22%増と大幅増で推移した。今後感染拡大が続き、外出自粛や小売店舗への休業要請などが行われれば、再び今春と同様の影響を被る可能性もある。市場の動きを見極めながら、対応を考えなくてはならない。

【取材】